

平成30年度 第2回桐生市総合戦略推進委員会 議事要旨

○日 時 平成30年10月5日(金) 午後6時30分～午後8時30分

○場 所 桐生市総合福祉センター 102・103会議室

○出席者

【委員】 委員長：桐生市総合計画審議会会長職経験者 宝田 恭之
副委員長：桐生商工会議所 会頭 山口 正夫
委員：桐生商店連盟協同組合 副理事長 茂木 理亨
桐生市農業委員会 会長 鎌塚 大作
桐生広域森林組合 総括課長 栗原 和人
桐生刺繍商工業協同組合 理事長 村田 欽也
群馬県桐生みどり振興局 局長 大嶋 伸一
(代理出席：次長 新井 毅)
桐生商業高等学校 教諭 進路指導主事 関口 恵美
桐生信用金庫 専務理事 佐藤 敏彦
足利銀行 桐生支店長 海老沢 智
群馬銀行 桐生支店長 小金沢 啓人
桐生公共職業安定所 所長 小林 悟
(株)桐生タイムス社 事業推進室長 小澤 義明
桐生市区長連絡協議会 第3区長 茂木 新司
桐生市社会福祉協議会 常務理事 前原 太
きりゅう市民活動推進ネットワーク 代表 近藤 圭子
(代理出席：副代表 今泉 照夫)
NPO法人キッズバレイ 代表理事 星野 麻実
桐生市医師会 理事 鈴木 康郎
桐生市婦人団体連絡協議会 会員 齋藤 優子
2015年からの生活交通をつくる会 会長 佐羽 宏之

<欠席者>

群馬大学理工学部 教授 板橋 英之
桐生市PTA連絡協議会 会長 増山 大祐
桐生青年会議所 理事長 水越 正樹

【桐生市】 市長 亀山 豊文
副市長 鳥井 英雄
<事務局> 桐生市総合政策部長 和佐田 直樹
桐生市総合政策部企画課長 田島 規宏
桐生市総合政策部総合戦略推進担当係長 金子 秀明
桐生市総合政策部総合戦略推進担当 馬場 秀穂
桐生市総合政策部総合戦略推進担当 早川 翔平

【報道関係】 1社

○会議内容

1 開 会

- ・過半数以上の出席により、会議が成立することを案内

2 挨拶

- ・市長から挨拶

3 議 題

- (1) 総合戦略事業について
- (2) 桐生市総合戦略推進委員会の今後の進め方について
- (3) その他

○議事概要

(1) 総合戦略事業について

- ・資料1～3に基づき、事務局から説明
- ・4つの基本目標ごとに次のとおり意見交換を実施

<意見交換：基本目標1>

委 員	○本日の会議資料を見ると、基本目標1から3では、K P I の目安値を達成している項目が多いようであるが、実際には人口はどんどん減っている。どのようなことが考えられるか。
事務局	○基本目標の1から4において、各分野に係る多種多様なK P I が設定されているが、直接的に人口の増減に結び付く項目は限られている。 ○最も関係が深いものとしては、基本目標3自体の数値目標である合計特殊出生率であり、傾向としては若干上向きではあるものの、平成27年、28年では、目安値に対して下回っている状況である。 ○こうしたこともあり、自然減の歯止めがかかっていないことから、人口の減少幅が縮まらない状況である。
委 員	○新規創業者数について、平成29年度の実績値が47人であり、目安値の20人及び前年度実績の28人と比べても多くなっている。この要因はどのようなことが考えられるか。 ○また、平成30年度見込みでは、目安値は上回っているものの、平成29年度と比較すると減少するようである。このままの推移というわけにはいかないか。
事務局	○平成29年度の増加要因については、平成28年12月の「創業支援事業計画」の更新の際に、桐生信用金庫と商工会が支援機関に加わったことや、地方創生推進交付金を活用した創業チャレンジ支援事業補助金による支援が開始されたこと、空き店舗活用型新店舗開設・創業促進事業を活用した事業者も多かったことがK P I の向上に寄与しているものと考えられる。 ○なお、補足になるが、空き店舗率については、平成28年12月時点では20.2パーセントであったが、平成29年12月時点では18.4パーセントに改善されている。 ○平成30年度見込みについては、7月末時点の状況から算出したものであるた

	め、今後の状況によっては、増加することも考えられる。
委員	○こうした状況を見ると、目標値はもう少し多くても良かったのではないかと考えられる。
委員	○起業の状況は、他市と比べるとどのような状況か。
事務局	○各市様々な取組が行われているところであると思うが、本市では小規模ビジネス育成事業や創業者創出事業をはじめとする、本市の産業構造に合うような支援策を講じていることで、起業する者の創出に結びついていると考えられる。
委員	<p>○今年度と昨年度の求人情報を比べると、昨年度は300件程度であったが、今年度は450件程度あり、100件以上多い。しかしながら、件数は多くなったが、県内の遠方からの求人が増えており、市内からの求人が増えている実感はない。</p> <p>○今の高校生は自宅から通うことを好む傾向にあり、公務員を除いた就職希望者の60名程度で、自宅から通えない県外を希望したのは2名であり、その他は自宅から通えるところで探しているが、求人と生徒の希望とのミスマッチが起きており、なかなか希望どおりにいかないというのが実態である。</p> <p>○就職先を探す生徒は1時間以上かけて通うことを覚悟の上、太田市、伊勢崎市、前橋市に広げ、就職先を探しており、景気が良いと言われているが、厳しい状況である。</p> <p>○桐生市立商業高校では、3分の2の生徒が進学するが、その生徒も自宅から通える学校を希望しており、自宅や地域から出て行こうという考えがなく、地元が好きなお子が多いようであるので、雇用の場があれば子供たちが住み続け、人口減少に少しでも歯止めがかかるのではないかと考えられる。</p>
市長	○就職を希望する生徒は、どのような職種を希望しているのか。
委員	<p>○本校は商業高校であるため、事務職を希望する生徒が多い。その一方で部活動が盛んであり、体を動かすことが得意な生徒は製造業や販売職など多岐にわたっている。</p> <p>○これまで商業高校だから製造業は好まないだろうということで、企業から求人してもらえないことがあったが、今年は人手不足ということで求人をもたらせる案件があった。製造業の事務や商業高校で学んだ簿記等を活かした仕事で活躍している卒業生もおり、事務に限らず様々な分野を希望している。</p>
委員	○この点について、産業界ではもっと吸い上げるようなことが必要であると考えますが、いかがか。
委員	<p>○群馬県では、首都圏を中心に県外に出て行った子たちが戻ってこないということで、Gターン、Iターンに力を入れて取り組んでいるところである。</p> <p>○基本目標の3にある有効求人倍率の状況を見ると、平成29年3月では1.13であるが、群馬県全体で見ると、非常に低い状況であり、群馬県では1.6、職種別で見ると、建築関係では4を超えており、飲食などのサービス業や介護関係で</p>

	<p>は3.7を超えるような状況である。</p> <p>○商業高校の卒業生は簿記やパソコンを学んでおり、事務職として入ってきた際には、即戦力として期待できる人材であると考えているため、その状況は少し意外であったが、元気な企業もあるので、少しでも地元で採用できるように求人増加に努めてまいりたい。</p>
委員	<p>○桐生に住んで働きたい子たちがいるということなので、確保できるよう、産業界の方々によりしくお願いしたい。</p>

<意見交換：基本目標2>

委員	<p>○空き家・空き地バンクの成約件数が増加傾向にあり、平成29年度では47件となっているが、何か要因はあるか。</p>
事務局	<p>○平成29年度において、会議資料3の地方創生推進交付金を活用した「既存ストックの活用による地方暮らしの推進」において、地方暮らしのPRや地方暮らしの体験事業を推進したことによる効果であると考えられる。</p>
委員	<p>○転入者数も平成26年度と27年度を比較すると増加しているようであるが、この点はいかがであるか。</p>
市長	<p>○この辺りは住宅取得応援事業が開始されたことの効果であると考えられる。</p>
委員	<p>○そうすると、かなり効果があるということになる。</p>
市長	<p>○商工会議所の建設部会からの要望もあるが、どこかでお金が回ると人が動く。そういう事業の効果としては、順調に出てきているのではないかと考えられる。</p>
委員	<p>○住宅取得応援事業について、住宅取得の際に補助金が交付されるものであるが、地元の業者が潤うような仕組みや、地元の森林資源を活用してもらった場合に差をつけるような制度にはできないか。</p>
市長	<p>○市内業者の活用によって、補助金が変わる制度となっている。</p> <p>○個人的な感想になるが、住宅の取得や新築をする際に、以前は良い大工がいる、良い木材を使用しているということで業者を選んでしたが、最近ではハウスメーカーを中心にカタログで家を選ぶことを好む風潮となっている。地元の大工や工務店がもう少しPRすると、地元で還元されることが多くなるのではないかと考える。</p>
事務局	<p>○補足で申し上げると、住宅取得応援事業には市内業者加算という項目があり、市内業者で住宅を建設すると、10万円が加算されるものとなる。</p>
委員	<p>○先ほどの商業高校の状況と関連して、市では、高校・大学を卒業した者の内、どの程度が市内に就職しているかといったデータは取っているか。</p>

事務局	<p>○群馬大学理工学部の状態については、毎年度調査を実施しており、昨年度の状態を現在調査しているところ。</p> <p>○一昨年度の実績では、パーセントにすると数パーセントといったところである。</p>
市長	<p>○市外から来ている学生が多いことが、商業高校の状態とは異なると考えられる。</p>
委員	<p>○群馬大学理工学部の学生の割合は、県内から5割、県外から5割といった状況であるが、近年では桐生高等学校から進学してきた学生が増えてきたように感じる。また、桐生市内には工業高校もあることから、桐生市に留まろうとする学生は増えてくるのではないかと考えられる。</p> <p>○移住の促進も重要だが、出て行かないようにするというのも大事であり、産業界が連携し、新卒者を確保するということが大変重要である。</p>
委員	<p>○少し話が戻るが、企業誘致については、新規雇用者数の増加を目的とするのであれば、例えば、ただ単に製造業とすると、外国人労働者や研修生で穴を埋めてしまうことが多い。このため、それなりの付加価値が見込め、日本人を雇用し教育ができる実力のある企業を誘致するとともに、その後の状況についても把握していくことが重要である。</p> <p>○観光等で桐生市を訪れる方たちに住んでみたいと思ってもらうことが大事。</p> <p>○再来年に開催される東京オリンピックを見据え、外国人観光客の増加が見込まれる中、観光拠点施設の検討はされているようであるが、東京オリンピックまでの期間を考えると切迫してきたことから、観光協会に任せずに市で大きな予算を取り、実施することが必要であると考えられるがどうか。</p>
副市長	<p>○税金の使い道について、どのような使い方をすることが市民の方々の利益に繋がるかを考えたときには、官が主導して実施しなければならないことを最優先にしなければならないと考えている。</p> <p>○そうした中で、観光協会といった組織については、観光で商売をして利益を上げる方々が中心になり、観光入込客数の増加や売上の増加などのため、実施していることが全国的には多いようであり、まずは、そういった方々の協力ももらいながら、市は観光協会頼みではなく進めていくことが求められていると考えられる。</p> <p>○また、まちなかで観光案内を行う機能を持った施設については、桐生をまち歩きする観光客も増えてきていることから、企業からの協力等ももらいながら、市と観光協会が連携し、様々な意見を聞きながら整備していくことを進めているところであり、もう少しすれば情報をお知らせできる状況である。</p> <p>○インバウンド対策に関して、地方都市になかなか外国人観光客が来ないことの要因としては、現金ではなくクレジットカード等で支払いができるような決済システムにならないと難しいことがあるため、商店街の方々と考えていく必要がある。</p> <p>○こうした決済システムの整備ができた後は、外国人向けのPRができることとなる。</p>
委員	<p>○観光案内所についての検討は進んでいるようである。やはり、観光案内所、イ</p>

	<p>ンフォメーションセンターについては、桐生市規模のまちには必要であると考えられることから検討を進め、観光客の利便向上を図ってもらいたい。</p> <p>○また、決済について、クレジットカードが使えるということは非常に重要であるとする。</p>
委員	<p>○現状では、VISA や Master カードは使用できるが、中国や台湾で使用されている銀聯カードの対応はできていない。今後、2020 年の東京オリンピックを一つの節目として捉え、それに向けてどのように整備を進めていくかを検討しているところ。</p> <p>○観光案内所についても、2020 年が節目になることから、そうしたことを期限として捉えながら進めてもらいたい。</p>
委員	<p>○クレジットカードの決済については、最低限のインフラとして、行政とも相談しながら進めてもらいたい。</p>

<意見交換：基本目標3>

委員	<p>○キッズバレイでは、桐生市の屋内遊戯場の運営を実施しており、子どもを遊ばせに来たついでに、母親や父親等から子育ての相談を受けている。</p> <p>○移住の話に繋がるところでは、市外から引っ越してきて、子育て中で働いていない母親からは「情報がない」という意見はよく聞く。どこの店に行けばいいのかわからないという意見や、市内にある支援センターでは子どもが遊べるのかなど、仕組みがわからない。また、大きなショッピングセンターがないため、自宅にいてすごく悶々とするという意見が結構多くある。</p> <p>○このため、情報提供というかたちで、おすすめの飲食店や行政施設、サービスの案内などを行っている。</p> <p>○働いていないと社会との接点が少ないため、自宅に一日中いる方を対象に、全員が行うであろう検診や住民票等の届出を出すときなどに、生活に密着した情報を提供できると良いと考える。</p>
委員	<p>○委員さんは妊娠、出産で不安になったことなどはあるか。</p>
委員	<p>○入院中に赤ん坊が母乳を飲んでくれない、寝てくれないなどのトラブルがある場合で、自宅に戻ることが怖くなり、退院したくないという人も多い中、産後1週間弱で退院しなければいけないということで、とても不安であったが、昨年産後2週間の産婦健康診査が受診できるようになったことは、すごく良かった。</p> <p>○産院が増えるともう一人産んでみたいと思うようになるのではないかと考えられる。</p> <p>○厚生病院では、妊婦健診の際に3Dでエコーが見られないので、導入してもらいたい。</p> <p>○出産の費用について、42万円の補助で足りるものと思っていたが処置などを含めると、10万から15万円は持ち出しが必要になる。例えば入院中に薬剤1錠を投与されるとその分加算されているとか、ほとんど入院したことがないので</p>

	<p>知らなかった。補助自体は全国どこでも同じだと思うが、子どもを産む費用がかからないような環境に日本がなると良いと考える。</p>
市 長	<p>○妊娠から出産までの不安の解消ということでは、様々な子育て支援をできるだけ手厚く支援していきたい、また、してきたとも思っている。</p> <p>○出産費用については、基本的な出産費用のほか、様々なオプションがあるなど、情報が多いことから、行政として把握し、情報提供しなければならない部分もあると思う。</p> <p>○出産費用が足りていないという意見も含め、今の意見は行政として十分に承りたいと思う。</p>
委 員	<p>○困りごと座談会を実施し、桐生で子育てをする際に何か困ったことはあるかを聞いたが、その際に多く出たのが検診の時間であった。</p> <p>○例えば2歳児検診の時間は午後になるが、この時間は子どもの機嫌が悪い時間でなかなか連れていくのが大変である。また、子どもの機嫌が悪い状態で母親も緊張しながら保健師さんに診てもらふこととなり、身構えてしまうこととなるため、検診の時間が子どもの機嫌の良い午前中にならないのかという意見が多くある。</p> <p>○病院、医師の休み時間中に実施しているということから難しいということも理解しているが、この声を届けさせてもらいたい。</p>
委 員	<p>○外来の患者を抱えながら検診を行っており、今の検診の時間も昼休みだけでは終わらず、外来の時間を削っている状態であり、困っている患者を置いてきている状態となるため、開業医ではかなり難しい点である。</p> <p>○そのため、勤務体制がある厚生病院にがんばってもらえると助かる状況ではある。</p>
委 員	<p>○桐生市としては、人口減少対策として安心して子育てができる環境整備や特色ある教育の充実に取り組んでいるところと思うが、こうした取組をさらに推進することにより、人が集まってくるということもあるので、この辺を重点的に手厚くやってもらえるよう、よろしく願いしたい。</p>

<意見交換：基本目標4>

<p>委員</p>	<p>○地域住民や地区住民の目線となるが、桐生の町にはいわゆる迷惑施設と呼ばれる施設が全部そろっている。</p> <p>○環境先進都市実現に向けた取組という項目があるが、既存施設が老朽化し、これだけ人口が減っている中で、新たに作らなければならないとすると、こんなにすごい施設が桐生にはある、というような先進的な環境施設にすべきだと考える。人口減少を踏まえる中でその辺りをどのように考えているかを伺いたい。</p> <p>○近隣の自治体では、迷惑施設を所有していないところもあり、桐生はあまり使うところがないのに、バキュームカーが頻繁に通るといった話も聞くので、そういったところの考えを伺いたい。</p>
<p>副市長</p>	<p>○今ある施設は当初建てた時から数十年経過しており、建設当時は将来人口も右肩上がりであったため、人口減少を踏まえて作った施設ではないことから、どうしても施設の処理能力が過大であるものがある。</p> <p>○どの施設をとっても莫大な経費がかかっており、これらを作り直すのと、10年、15年を延命化するための補修と、どちらが住民にとって有利なのかを考えながら、長寿命化という観点も含め検討している。</p> <p>○そうした中で、処理能力が若干でも余れば、近隣のまちが例えば清掃センターを作り直すとか、桐生市で少しでも受け入れてもらえないかということがあった際には、有料で施設の能力を活かすかたちで、近隣のまちのものを受け入れ、維持管理費に充てることで長寿命化を図るといった、無駄のない方法で事業を行っていく。</p> <p>○新しく施設を作るとなれば、当然10年、20年を見据えて人口規模がどの程度になるかを踏まえた規模の施設を作るべきであると考えている。</p> <p>○また、近隣の自治体との連携ということで、基本目標の4、「広域的な視点かつ地域の将来を見据えた、地域の特徴に応じたまちづくり」のとおりであるが、桐生がフルセットでいろいろな施設を持ち続けていくことは難しいと考える。</p> <p>○人口規模は何人が1番良いといった意見は色々あるが、例えば、20万人に1つあれば良いといった施設の場合、この施設は、桐生市が受け持ち、こっちの施設は近隣自治体の建替えの際に、桐生市の分も含めて受け持ってもらえると、お互いに迷惑施設的なものが、それぞれ1つ減るといったやり方もできることとなる。</p> <p>○今後は地域の人口減少を見据え、地域の方々に莫大な投資による負担をなるべく強くないようにし、市民の皆様に負担してもらった税金をもっともっと別のところに使えるよう、無駄のない施設整備を迷惑施設に限らず検討しているところである。</p> <p>○やはり施設がそれぞれの町にあった方が良いという考えもあるだろうが、実際には、伊勢崎市や前橋市などのゴミを受け入れていることでもあり、これからはそれぞれの町の特徴等々に応じて施設の分担をし、それでもって地域で無駄がなく、市民のみなさまには快適に生活ができるように取組を進めているところである。</p> <p>○特に迷惑施設については、地域の方々には理解をしてもらったり、あるいは多少のことを我慢してもらっているということもある。</p> <p>○そのようなことも踏まえながら、今後については、各市にそれぞれ責任をもつ</p>

	<p>て施設の分担を考えてもらいながら、それぞれが少しでも良い方法で施設運営に取り組み、特に桐生市の場合には、前々から市長には指示をもらっているところでもあるので、施設の建設、整備、あるいは統合、廃止を考えて取り組んでまいりたいと考えている。</p>
委員	<p>○資料1の基本目標4に記載されている(1)の「②保健・医療・介護体制やサービスの充実」について、市民アンケートによる満足度割合がKPIであるが、この「②病院や診療所の便利さ」が平成26年時には57.9パーセントだったが、平成28年時には52.6パーセントと急激に落ちている。この理由などがわかれば教えてもらいたい。</p>
市長	<p>○個人的な意見としては、おそらくアンケートについては厚生病院のことが関係していると思われる。開業医、医師会の皆様が本当にながらんでいる中で、一般的に厚生病院を見るところか、感想に近いところが数値に影響しているのではないかと個人的にはそう思っているので、反省しなければならない。</p>
副市長	<p>○今の話につけ加えると、アンケートは2年ごとに実施しており、数値が動いているものの分析の中では、医師会の皆様には本当にながらんでもらっているが、開業医の後継者が地域でなかなか引き継いでもらえないような状況から、身近な医療機関の休業や閉院、こういったものが影響しているようである。それに加えて厚生病院のことでなかなか要望事項が改善されない。そういった部分が要因として数値に影響されていると考えられる。</p>
委員	<p>○先ほど副市長から話のあった公共施設の話であるが、公共施設を建設する際には、民間の資金等、民間の経営ノウハウを活用した方が財政的にも良いと考えられるので、ぜひともPFIの方式を検討してもらいたい。</p>
副市長	<p>○桐生市では、様々な施設を一定期間の間に整備しなければならない現状があり、この先もしばらく使い続けるような種類の施設については、なかなか話を進めにくいことがある。</p> <p>○そうした場合には、公民連携をまずは1番手に考えることが必要であると考え。税金を上手に使い、みなさまにいかにか適な生活を送ってもらうかを考える中では、行政が単なる借金である起債というものだけに頼るのではなく、公民連携という手法の中で、公共施設も少し考え方を変えて、民の人たちの稼ぎ出す力をそこに複合化させたり、いろいろな可能性を踏まえながら、PFIだけでなく公民連携ということもこれからは研究し、施設を整備する場合には、そういう可能性について1番先に考えた上でその次の策を考えてまいりたいと思うので、その節はお知恵、お力を貸していただきたい。</p>
委員	<p>○中心市街地活性化について、資料1の基本目標4の「(2)将来を見据えた計画的なまちづくり」の「②計画的な地域づくりの推進」についてKPIが計画(構想)の策定及び推進とあり、実績値では未策定のまま、ここまできている。</p> <p>○平成30年度に立地適正化計画が策定予定であるが、この計画は居住地域や地域指定の考えが含まれることから、町として全てに関わり、根幹をなすものだと</p>

	<p>思う。それがここまでのびのびになってしまっているという感覚である。</p> <p>○また、これも発表になっていないが、新規庁舎の建替えの問題である。これをどこにどうするかたちで建てなのか。ここには書いていないが市の予算、おそらく数十億、百億円以上の費用をかけて建替えるのか、それとも先ほどの委員意見のようにPFIの手法を用いるのか、場所についても同じ場所に建替えるのか、立地によって色々な作用が起きるような、良い効果を及ぼすような場所に移転するのかなど。</p> <p>○パブリックコメント等もこれから実施すると思うが、もう少し市民に対してオープンに情報を公開し、前進的な発想を持ってやってもらいたい。</p>
副市長	<p>○立地適正化計画に関しては、どうかたちで用途別にその土地の利用等を考えていくか、といったことをある程度最初に確立した上でないと、その次の段階の個別具体的な計画を進めることは難しいものとなる。</p> <p>○立地適正化計画を策定すれば終わりということではなく、策定後にはまちなかをどうかたちで考えていくのかに関しては、様々なやり方があるので、地域の商業者等々を含めて検討を行い、必要な計画はこれだというような方向性を踏まえ、迅速に対応してまいりたい。</p> <p>○このため、まずは立地適正化計画を早く発表させてもらい、理解してもらった上で意見を吸い上げ、それをもって次のステップへということを考えてまいりたい。</p> <p>○また、ここですぐに話のできない内容ばかりで恐縮であるが、庁舎に関しては耐震化等の様々な問題を抱えているので、非常にまったなしの状態、再整備をしないとイケないということを認識しており、今は庁内で、基本方針の取りまとめを行っている。</p> <p>○この基本方針の取りまとめについては市長から強い指示をもらっており、遅くとも年度末までには、パブリックコメント等々で市民の方々の意見を伺ったりする機会を設けたいと考えている。</p> <p>○あと数ヶ月で方針として考えていることを公表できる予定であるので、よろしくお願ひしたい。</p>

(2) 桐生市総合戦略推進委員会の今後の進め方について

・資料4及び5に基づき、事務局から説明

委員長	○次期総合戦略の策定に向けての推進委員会の役割と任期についての2点について説明があった。本来であれば、来年7月末で任期終了となるが、平成32年3月末まで延長することで、一貫した体制で戦略策定に臨みたいということである。 ○また、この場で議論した施策を総合計画の重点施策に取り入れ、総合計画と一体的に策定していきたいということであり、総合戦略の部分では絞り込むことや、序列をつけていくといったことが考えられる。これらのことについて、何か意見や質問があればお願いしたい。
意見・質問等なし	
委員長	○それでは、特にはないようであるため、委員任期も含め、事務局の説明どおりとし、次期総合戦略の策定に向けてみなさまからの意見をとりまとめさせてもらいたい。

(3) その他

・意見なし

4 その他

委員	○パブリックコメントの実施期間について、2週間では短く、意見提出が難しいとの意見を聞き及んだことがあるのだが、期間に規定等はあるのか。
副市長	○条例に規定があり、通常は1か月、30日以上となっており、2週間というのは何か特段の事由があり、その期間で実施したのではないかと考えられる。通常は1か月間実施することで、市民意見の提出をもらうこととしている。
委員	○1か月あれば、十分であると考えられるので、なるべくそのようにしてもらいたい。

以上

5 閉会